

山中貞雄生誕100年を記念して、 デジタル・ミーム製作 「貞雄にいさんのこと—素顔の山中貞雄」が 2009年12月19日から シネ・ヌーヴォ(大阪)で上映されます

日本映画の最初の黄金期と呼ばれる戦前の日本映画界に彗星のように現れ、監督第1作『磯の源太 抱寝の長脇差』が大絶賛され、わずか22歳の若さで巨匠の仲間入りを果たした山中貞雄。若き天才監督の名をほしいままに、『盤嶽の一生』『街の入墨者』など名作を次々に発表するも、1937年、中国戦線に出征。中国各地を転戦後、翌38年、中国河南省開封市の病院でわずか28歳で戦病死。

デジタル・ミームでは夭折した天才監督である山中貞雄の姪御にあたる原田道子さんと映画評論家・佐藤忠男氏の対談を2007年6月に、山中家の菩提寺である京都・大雄寺(だいおうじ)で実施。山中貞雄生誕100年にあたる今年、シネ・ヌーヴォ(大阪府西区九条1-20-24)で2009年12月19日から始まるシネマテークプロジェクト第2弾「生誕百年 映画監督 山中貞雄」にて上映することとなりました。

「貞雄にいさんのこと—素顔の山中貞雄」は約60分の映像。緑美しい大雄寺の庭を背景に生前の山中貞雄を知る貴重なお身内である原田道子さんと映画評論家・佐藤忠男氏の対談映像を収めました。山中貞雄の遺作となった『人情紙風船』をご覧になったときの「なんであんなのめりこむようなさみしい映画とりはったんやろ。貞雄ちゃんの映画やないみたいや」という山中貞雄のお母様の感想をはじめ、身内のみが知る「素顔の山中貞雄」とその時代を語る貴重な内容となっています。

山中 貞雄 (やまなか・さだお)



1909年11月8日、京都府生まれ。1927年、京都市立第一商業学校の一年先輩であったマキノ正博を頼って、マキノ御室撮影所へ入社。その後、嵐寛プロ、東亜キネマを経て日活京都撮影所へ移籍。『磯の源太 抱寝の長脇差』をはじめ発表する作品は絶賛され、若き天才監督と呼ばれる。1937年、出征。1938年、28歳で戦病死。わずか5年余りの監督生活で発表した監督作品は26作品(応援監督2作品を含む)。フィルムが現存するのは、『丹下左膳余話 百萬両の壺』『河内山宗俊』『人情紙風船』の3作品のみ。

原田 道子 (はらだ・みちこ)

山中貞雄監督姪御。京都在住。「ほんとうは姪にあたるんですが、同じ家で育ちましたので『貞雄にいさん』と呼んでおりました」と語る。

佐藤 忠男 (さとう・ただお)

映画評論家、日本映画学校校長。映画評論家として幅広い分野の評論活動を展開。多数の著書の中でも、ライフワークともいえる『日本映画史』(全4巻)で毎日出版文化賞と芸術選奨文部大臣賞を受賞。日本映画学校校長として、映画人の育成にも力を注いでいる。

お問合わせ・取材のお申し込みは 株式会社デジタルミーム 砥川(とがわ)までおねがいします。

Tel 03-5467-4729 Fax 03-5467-4722 e-mail: info@digital-meme.com 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-11 祐真ビル新館12階
クラシックフィルム上映会、DVD情報はこちらから

www.digital-meme.com



©株式会社デジタル・ミーム